科目名：病理学	必修	1単位(45時間)
(Pathology)		

履修年次/時期：1年次　後期　　授業形態：講義

主担当教員：窪田 展久

主担当教員詳細：病理診断業務の実務経験38年。学問としての病理学を病院での診断業務を通じて実践して いる。この経験を活かし，病理学と臨床の現場を結びつける様な内容で講義を行う。

担当教員名：

学修目的	病理学総論の講義では，疾病の原因，発生機序，経過および転帰などを主に形態学の面から学習し，病理学に対する理解を深め，看護師として適切な医療業務を行うための基本的知識を身につける。 そのために，様々な疾病をカテゴリーごとに分類整理して，疾病の原因や成り立ち、疾病に起因する細胞や組織の変化や疾病の人体への影響を系統的に学習していくことにより，健康破綻した身体の理解を深め、専門分野の看護学の理解に役立てる。 関連するCP：CP2,CP3,CP4　　科目No. KSI-117		
この科目が目的としているDP	1．医療専門職としての倫理観を有する。	(1)生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2)医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	－
	2．医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1)教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2)専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		(3)社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	3．健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1)多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	－
		(2)優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	－
		(3)看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○
	◎：この講義・演習・実習と最も関連があるDP ○：この講義・演習・実習と関連があるDP		
到達目標	①病理学を学ぶ意義、種々の病因による病変の分類、臨床医学との関連を理解する。 ②先天異常の発生原因および形態的変化を理解する。 ③障害性刺激によって受動的に生じる生体側の機能的・形態的な病的変化について、肉眼的および組織学的変化を理解する。 ④循環障害による種々の病的状態の肉眼的・組織学的変化およびその転帰を理解する。 ⑤生体の防御反応である炎症の基本的概念について修得する。さらに高次の防御反応である免疫に関する基本的概念および自己免疫疾患と感染症について修得する。 ⑥腫瘍の発生原因、特徴、分類、疫学の総論的理論を理解する。 ⑦加齢に伴う臓器や組織の形態的，機能的変化について理解する。 ⑧個体の死とは何か説明できる。		
授業概要	疾病の基本的な原因と病態の発生過程を病理学的観点より把握するために、奇形や退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍などのカテゴリーに関する知識を学習する。病態と治療論の礎とする。		
評価方法	学期末試験 90%，課題10%を合わせ，総合的に評価する。 試験に対するフィードバックは掲示で行う。		
予習・復習時間	【予習】1.9時間 【復習】1.9時間		
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 第6版		
参考書	カラーで学べる病理学 渡辺照男編 ヌーヴェルヒロカワ 集中講義 病理学 メジカルビュー社		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ連絡先	n.kubota@kdu.ac.jp		

実施回	第1回	実施日	2026/09/08 (火)	時限	2	班	
授業計画	・病理学概説，病因論，病理学と臨床医学 ①病理学の概要について説明できる. ②病因論について説明できる. ③病理学と臨床医学の関係を説明できる.	予習	教科書の第1部・第1章，第2部・付章を読んでおく.				
		復習	配布プリントと教科書をあわせて読み直し理解を深める.				
		キーワード	病理学，疾病の原因，病理診断、内因、外因				
授業形態	講義	担当	窪田				

実施回	第2回	実施日	2026/09/15 (火)	時限	1	班	
授業計画	・先天異常 ①先天異常について説明できる. ②遺伝の形式を説明できる. ③遺伝障害と胎児障害を説明できる. ・老化と死 ①加齢に伴う組織・細胞の変化を説明できる. ②個体の死について説明できる.	予習	教科書の第1部・第7章，第8章を読んでおく.				
		復習	配布プリントと教科書をあわせて読み直し理解を深める.				
		キーワード	先天異常，遺伝子異常，胎児障害				
授業形態	講義	担当	窪田				

実施回	第3回	実施日	2026/09/29 (火)	時限	2	班	
授業計画	・代謝障害（細胞組織の損傷と修復） ①細胞の損傷と適応について説明できる. ②退行性変化について説明できる. ③進行性変化について説明できる ④細胞の障害に対する再生について説明できる. ⑤細胞の障害に対する修復について説明できる. ⑥代謝障害と疾患について説明できる.	予習	教科書の第1部・第2章-A，第6章を読んでおく.				
		復習	配布プリントと教科書をあわせて読み直し理解を深める.				
		キーワード	萎縮，変性，壊死とアポトーシス，肥大と過形成、創傷とその治癒，再生と修復，代謝障害				
授業形態	講義	担当	窪田				

実施回	第4回	実施日	2026/10/06 (火)	時限	2	班	
授業計画	・循環障害 ①循環器系の概要について説明できる. ②局所性循環障害について説明できる. ③全身性循環障害について説明できる. ④リンパの循環障害について説明できる.	予習	教科書の第1部・第5章を読んでおく.				
		復習	配布プリントと教科書をあわせて読み直し理解を深める.				
		キーワード	循環系，充血，うっ血，虚血、血栓症，塞栓症，梗塞，出血、ショック，播種性血管内凝固症候群，傍側循環，浮腫				
授業形態	講義	担当	窪田				

実施回	第5回	実施日	2026/10/13 (火)	時限	2	班	
授業計画	・炎症と免疫 ①炎症の定義を説明できる. ②炎症細胞を説明できる. ③急性炎症と慢性炎症について説明できる. ④炎症の組織学的分類を説明できる. ⑤免疫反応について説明できる. ⑥免疫担当細胞について説明できる. ⑦細胞性免疫と液性免疫について説明できる. ⑧免疫異常について説明できる ⑨移植と免疫について説明できる. ⑩再生医療について概略を説明できる.	予習	教科書の第1部・第2章-B,C，第3章を読んでおく.				
		復習	配布プリントと教科書をあわせて読み直し理解を深める.				
		キーワード	炎症、免疫、免疫異常，アレルギー，自己免疫疾患，拒絶反応				
授業形態	講義	担当	窪田				

実施回	第6回	実施日	2026/10/29 (木)	時限	1	班	
授業計画	・感染症 ①病原体と感染症について説明できる. ②宿主の防御機構について説明できる. ③主な病原体について説明できる. ④感染症の治療と予防について説明できる. ・腫瘍（1） ①腫瘍の定義を説明できる. ②腫瘍の分類を説明できる ③悪性腫瘍と良性腫瘍の違いを説明できる. ④前癌と境界病変について説明できる. ⑤腫瘍細胞の機能について説明できる.	予習	教科書の第1部・第4章，第9章Aを読んでおく.				
		復習	配布プリントと教科書をあわせて読み直し理解を深める.				
		キーワード	感染症，感染経路				
授業形態	講義	担当	窪田				

実施回	第7回	実施日	2026/11/10 (火)	時限	2	班	
	・腫瘍（2） ①腫瘍の発生機序について説明できる. ②癌遺伝子と癌抑制遺伝子について説明できる.	予習	教科書の第1部・第9章B,C,Dを読んでおく.				

授業計画	②細菌毒素と細胞増殖に関して説明できる. ③腫瘍の病因について説明できる. ④悪性腫瘍の拡がり方を説明できる. ⑤悪性腫瘍の評価と宿主への影響を説明できる. ⑥腫瘍の診断方法，予後評価について説明できる.	復　習	配布プリントと教科書をあわせて読み直し理解を深める.
		キーワード	良性腫瘍，悪性腫瘍、腫瘍の発生病理，癌遺伝子，癌抑制遺伝子、転移，腫瘍マーカー
授業形態	講義	担当	窪田

実 施 回	第8回	実　施　日	2026/11/12 (木)	時限	1	班	
授業計画	・これまでの講義の振り返り学修 ・国試問題演習	予　習	これまでの講義内容を復習しておく.				
		復　習	配布プリントと教科書をあわせて読み直し理解を深める.				
		キーワード					
授業形態	講義	担当	窪田				

実 施 回	第9回(補講)	実　施　日	2026/11/17 (火)	時限	2	班	
授業計画		予　習					
		復　習					
		キーワード					
授業形態	講義	担当	窪田				

実 施 回	第10回(補講)	実　施　日	2026/12/15 (火)	時限	2	班	
授業計画		予　習					
		復　習					
		キーワード					
授業形態	講義	担当	窪田				